

# 九州教育学会 第75回大会 プログラム

第1日 11月18日(土)		
12:00~13:00	受付	<沖縄大学内> 本館 ホワイエ(1階)
13:00~13:50	総会	本館 H-102教室
14:00~17:30	総合部会	本館 H-102教室
18:30~	懇親会	<別会場:県庁向かい> レストラン「アレッタ」 (ホテル ロコアナハ2F)
第2日 11月19日(日)		
8:30~ 9:30	受付	<沖縄大学内> 本館 ホワイエ(1階)
9:30~12:00	自由研究発表 教育哲学部会 比較教育部会 教育方法(教育課程)部会 教育史部会 社会教育、教育社会学部会 教育経営・行政部会	2号館 401教室 2号館 402教室 2号館 403教室 2号館 404教室 2号館 405教室 2号館 306教室
12:00~13:00	昼食・休憩	
13:00~15:00	ラウンドテーブル(先端技術の活用) 沖縄講座①(ブラジル移民) 沖縄講座②(村の再生と文化継承)	2号館 305教室 2号館 304教室 2号館 303教室

会員控室は本館 H-103 教室に設けております。

会場：沖縄大学（〒902-0075 沖縄県那覇市国場 555 番地）

大会準備委員会事務局 E-mail : kyukyou75@gmail.com

## 大会参加者の皆様へ

### 受付

受付は、第1日（11月18日）は、12:00から、第2日（11月19日）は、8:30から行います。  
場所は、沖縄大学本館1階ホワイエです。

### 大会参加費、懇親会費

#### （1）大会参加費

正会員 3,000円      学生会員 1,500円  
臨時会員、ラウンドテーブル参加者（会員外） 1,500円

#### （2）懇親会場、会費

- ① 会場    ホテルロコアナハの2F「アレッタ」（沖縄県庁向かい）那覇市 松尾1丁目1-2
- ② 会費    4,000円

※ 懇親会に参加される方は、第1日の13:00までに、会費を添えて受付にてお申込みください。また、懇親会会場への移動は、各自でお願いいたします。

### 発表要領

#### （1）発表時間

- ① 個人研究発表    30分（発表20分 質疑10分）
- ② 共同研究発表    60分（発表40分 質疑20分）

#### （2）発表資料

発表資料は50部用意し、当日、発表部会スタッフにお渡しください。

※ラウンドテーブルについては、各自のご判断でご準備をお願いいたします。

### 昼食

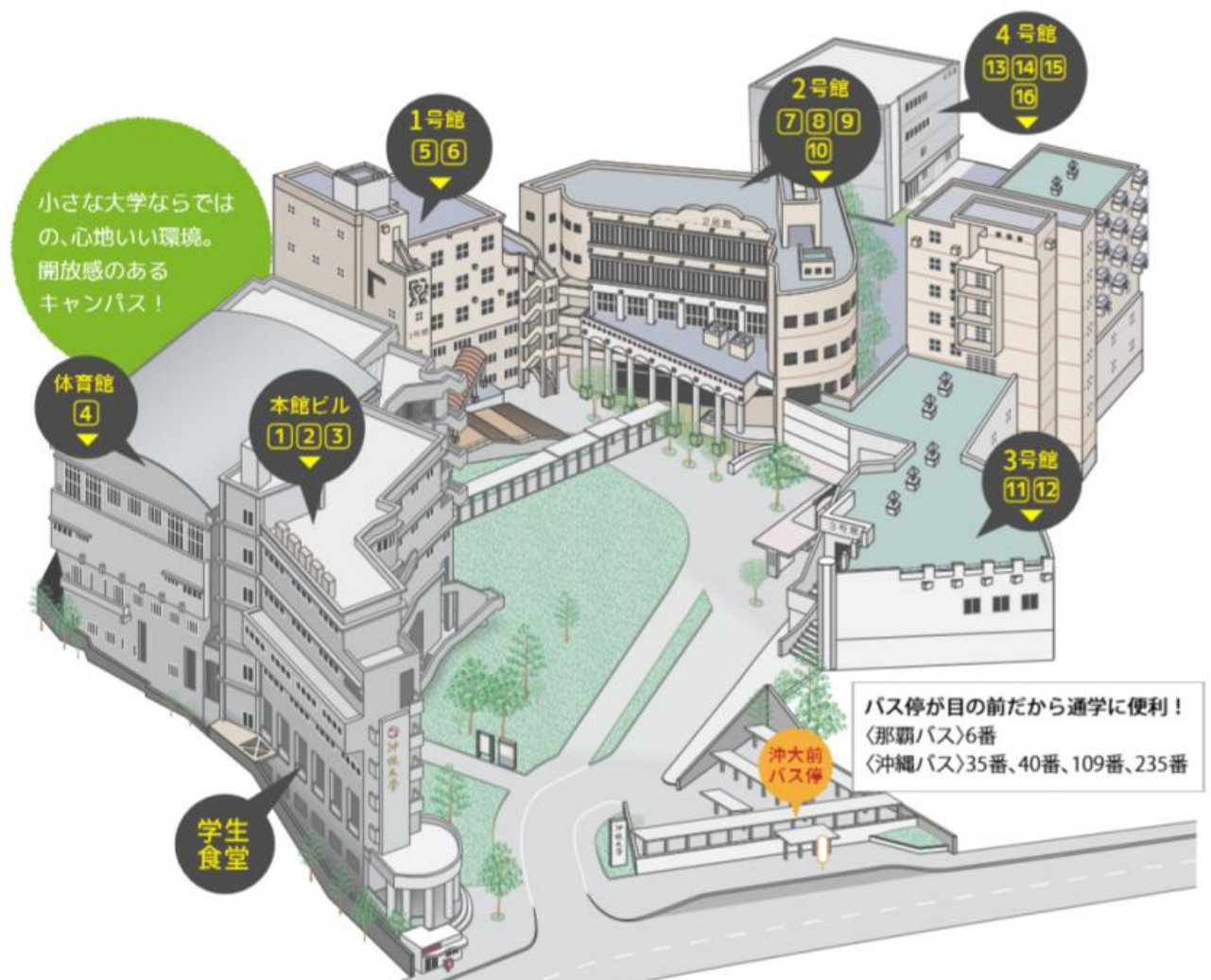
学内施設（コンビニエンスストア、学食）の土日の利用はできません。本学から徒歩圏内には、飲食店やコンビニエンスストアがございますので、ご利用ください。

## 会 場

沖縄大学 本館・2号館（〒902-0075 沖縄県那覇市国場 555 番地）

- |              |       |                            |
|--------------|-------|----------------------------|
| (1) 総会・総合部会  | … 本 館 | H-102 教室                   |
| (2) 自由研究発表   | … 2号館 | 401・402・403・404・405・306 教室 |
| (3) ラウンドテーブル | … 2号館 | 305 教室                     |
| (4) 沖縄講座①    | … 2号館 | 304 教室                     |
| (5) 沖縄講座②    | … 2号館 | 303 教室                     |
| (6) 会員控室     | … 本 館 | H-103 教室                   |
| (7) 事務局控室    | … 本 館 | H-101 教室                   |
| (8) 理事会室     | … 本 館 | H-104 教室                   |

### 【 キャンパス図 】



本館 H-102 教室 14:00～17:30

## 教育を受ける権利の実質化をめぐって（その3）

—教育を受けた経験は（貧困層の）子ども・若者に何をもたらすのか—

### 報告者

- 山野 良一 （沖縄大学人文学部教授 福祉学科長）
- 大江 将貴 （九州大学大学院人間環境学研究院助教）
- 神谷 康弘 （名護こども食堂副会長／東京学芸大学客員准教授／沖縄工業高等専門学校地域連携コーディネーター）

### 司会

- 元兼 正浩 （九州大学）
- 入江 優子 （東京学芸大学）

### 企画

- 元兼 正浩 （九州大学）
- 針塚 瑞樹 （別府大学）

### テーマ設定の趣旨

周知のとおり、本学会総合部会では第 73 回大会より教育を受ける権利の実質化の議論に着手している。一年目は「教育機会確保法（「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」）の成立 5 周年を機に、まずは夜間中学から考える」というタイ

トルで、そして二年目は「教育を受ける権利の実質化をめぐる」のサブタイトルに「－教育機会確保法やコロナ禍対応を不登校の視点から考える－」として課題設定をし、同法の直接的な利害関係者とされる夜間中学校の関係者、そして不登校児童・生徒関係者の立場やそれを研究する視点からそれぞれ理論的再検討を行った。その立法過程においては関係者の立場や利害も絡み、決定をめぐるポリティクスにおいて当事者の声が十分に届かなかったことも明らかにされた。このことは教育を受ける権利の実質化を進めていくためにも大きな課題である。大人の論理ではなく、教育を受ける当事者である子どもや若者の視点をふまえ、自己決定の重要性や教育を受ける権利を実質化するための支援の在り方など、引き続き議論を深めていきたいと願う。

第75回大会の開催地である沖縄県は、①子どもの相対的貧困率 29.9%（全国平均 13.5%）と厳しい状況であり、②1人当たり県民所得 2,391（全国 3,317）千円で低い方から1位、③非正規の職員・従業員率 43.1（全国 38.2）%で高い方から1位、④母子世帯出現率 2.6（全国 1.4）%で高い方から1位、⑤生活保護率 26.6（全国 16.2）%で高い方から3位、⑥就学援助率 24.2（全国 14.7）%で高い方から2位、⑦高校中退率 1.7（全国 1.1）%で高い方から1位、そして高校進学率や大学進学率も低い方から全国1位となっており、歴史的、政治的文脈の下で、教育を受ける権利の実質化について検討すべき課題が山積している。『裸足で逃げる－沖縄の夜の街の少女たち』で上間陽子（琉球大学）が描いた沖縄の風俗業界で働く女性のネットワークや共同性の実態はこうした貧困状況の表れの一つであろうが、では教育学研究者として我々はこうした状況にどのように向き合えばよいのだろうか、そこに教育の可能性はないのだろうか。少し問いをずらし、学力保障や発達保障も不十分で、低学歴層の若者の生活や意識はいったいどこに向かっているのか、「教育を受けた経験」が当事者に与える正の影響といった可能性についても考えてみたい。

本学会ではかつて沖縄大会総合部会でアメリカンの教育について取り上げたことがあるが移民第二世代など多様な背景をもつ子どもたち・青年・若者らの教育を受ける権利についても議論することができれば「総合部会」として意義があるのではないだろうか。ただ、断っておくが、このような状況はもちろん沖縄県だけの問題ではなく、九州各県、全国が抱えている今日的で喫緊の現代課題である。そこで登壇者には広くこうした子どもの貧困、若者の非行・育ちについて向き合ってきた研究者、そして日々リアルな子どもたちの状況に携わっている方にご登壇をお願いすることにした。本総合部会は久方ぶりの対面開催となるので、フロアからも忌憚なく議論に参加いただきたいと願う。

11 月 19 日（日）自由研究発表

教育哲学部会 会場：2号館 401 教室

司会：山岸 賢一郎（福岡大学）

【 1 】 9:30～10:00

芸道における「言語に基づく身体知」の可能性

吉沢 悠乃（九州大学大学院）

【 2 】 10:00～10:30

ルソーの宗教教育論：『エミール』と『新エロイーズ』の比較から

福永 暁斗（九州大学大学院）

【 3 】 10:30～11:00

『エミール』にみる「ありのままでよい」ものという思想の一考察

岡野 亜希子（近畿大学 産業理工学部）

【 4 】 11:00～11:30

カントの実用的人間学と「人間とは何か」という問い

塚野慧星（九州大学）

11:30～12:00 総括討論

11 月 19 日（日）自由研究発表

比較教育部会 会場：2号館 402教室

司会：日下部 達哉（広島大学）

【 1 】 9:30～10:00

米国カリフォルニア州における進学とキャリアの双方への準備の現在  
—人種・民族間の格差に着目して—

村上 和巖（広島大学大学院）

【 2 】 10:00～10:30

国際教育プログラムの管理運営に関する研究  
—国際バカロレアとケンブリッジ国際の比較分析—

花井 渉（九州大学）

【 3 】 10:30～11:00

モルディブにおける特別ニーズ教育からインクルーシブ教育への  
全面的な転換

森下 稔（東京海洋大学）

【 4 】 11:00～11:30

現代中国における学歴競争の形成過程に関する研究  
—河北省石家荘市を事例として—

任 青博（名桜大学大学院）

11:30～12:00 総括討論

教育方法(教育課程)部会 会場：2号館 403教室

司会：三村 和則（沖縄国際大学）

【 1 】 9:30～10:00

高校公民科における学習方略の現状に関する一考察

下地 貴樹（九州大学 学術協力研究員）

【 2 】 10:00～10:30

学校数学における知識観の変容に関する一考察

堀下 健太郎（八女市立福島小学校）

【 3 】 10:30～11:00

琉歌の教授法について

照屋 理（名桜大学）

【 4 】 11:00～11:30

コミュニカティブな英語授業における教師の発話に関する研究

—社会システム理論の視点に基づいて—

徐 曙紅（九州大学）

11:30～12:00 総括討論



11 月 19 日（日）自由研究発表

教育史部会 会場：2号館 404教室

司会：木村 政伸（西南女学院大学）

【 1 】 9:30～10:00

戦後日本の家庭裁判所における家族規範の模索

— 『ケース研究』（家庭事件研究会）を中心に—

千々松 皇陽（九州大学大学院）

【 2 】 10:00～10:30

初期近代イングランドにおける家政論史料

— 家政と教育に関する史料を中心に—

柴田 賢一（常葉大学）

【 3 】 10:30～11:00

浪速大学教育学部に関する一考察

小田 義隆（近畿大学）

11:00～12:00 総括討論

11 月 19 日（日）自由研究発表

社会教育、教育社会学部会 会場：2号館 405教室

司会：岡 幸江（九州大学）

【 1 】 9:30～10:00

通信制高等学校内における居場所の機能と役割に関する一考察

一不登校経験者へのインタビューを通して一

大城 穂乃香（名桜大学大学院）

【 2 】 10:00～10:30

地区公民館とまちづくり協議会一宮崎県都城市の事例から一

植村 秀人（南九州大学）

【 3 】 10:30～11:00

学校と地域の協働による教育福祉実践に関する研究

一沖縄県浦添市の事例を手掛かりに一

入江 優子（東京学芸大学）

11:00～12:00 総括討論

教育経営・行政部会 会場：2号館 306教室

司会：嘉納 英明（名桜大学）

【 1 】 9:30～10:00

占領期沖縄における教育課程基準の策定とその法的位置づけ

松田 香南（名古屋大学大学院教育発達科学研究科）

【 2 】 10:00～10:30

外国につながる生徒のキャリア教育に関する研究

－韓国外国人集住地域の取組みを事例として－

金 美連（熊本学園大学）

【 3 】 10:30～11:00

COVID-19 関連教育学論文の布置状況と教育学研究の課題

○小椎葉大樹（九州大学大学院）

元兼正浩（九州大学）

鄭修娟（九州産業大学）

11:00～12:00 総括討論

## 11月19日（日）ラウンドテーブル

2号館 305教室 13:00～15:00

### 教育現場における先端技術の活用について考える

- 小川 拓郎（九州大学）：企画者/司会者/話題提供者  
宮本 聡（九州大学）：企画者/司会者/話題提供者  
藤田 雄飛（九州大学）：話題提供者  
立石 力斗（近畿大学九州短期大学/九州大学大学院）：話題提供者  
梅崎 真理子（九州大学）：話題提供者  
北島 千朔（九州大学）：話題提供者  
久米 祐子（九州大学）：話題提供者  
野々村 淑子（九州大学）：指定討論者

本ラウンドテーブルは、先端技術の教育現場への活用に関する理論的・実践的な報告をもとに、その可能性と課題を議論するものである。

教育現場での技術活用をめぐる排除/包摂の議論（技術活用への自省的な議論）のなかで、教育現場の分離構造に対して技術はいかに作用可能であるか、また、教育現場に持ち込んだ最先端技術はどのように教員・学生に受け止められるのかといった実際的な問いをテーマとし、報告者らが2022年より行っている特別支援学校での最先端技術を応用した実践を元に議論を展開する。

話題提供者は、教育学のみならず、建築学（レーザー実測や一級建築士など）や元特別支援学校教員など、幅広い専門分野から構成される。

11 月 19 日（日）沖縄講座

2 号館 304 教室 13:00～15:00

## 沖 縄 講 座 ①

ウチナーンチュのブラジル移民とコミュニティ形成

長尾 直洋（名桜大学）：発表者

板山 勝樹（名桜大学）：司会者

本講座では、日本国内でも有数の移民送出地域である沖縄県から海外への移民について、特にブラジル移民を事例にその歴史や現地でのコミュニティ形成について概観する。

具体的には、移民を送り出した日本や沖縄県側の事情を踏まえた上で、沖縄県からブラジルへの移民の流れ、第二次世界大戦前後におけるブラジルのウチナーンチュの分布（戦前：サントス、ジュキア線、カンポ・グランデ、サンパウロ州内陸部／戦後：サンパウロ市内ビラ・カロン地区など）、そのコミュニティ形成（郷友会、県人会、新聞など）と現在における活躍について紹介する。

本講座を通して、世界で最も日系人口が多いとされるブラジルにおける沖縄県系移民とその子孫の存在感と重要性が示されると共に、5 年毎に開催される「世界のウチナーンチュ大会」に代表される、沖縄県と移民先との強い絆についても示唆されよう。

11月19日(日) 沖縄講座

2号館 303教室 13:00~15:00

## 沖縄講座 ②

基地接收と返還による村の再生と文化継承—読谷村を事例として—

中田 耕平 (読谷村教育委員会文化振興課 村史編集係長) : 発表者

嘉納 英明 (名桜大学) : 司会者

沖縄県読谷村は、太平洋戦争下末期の「沖縄戦」において、米軍の上陸地点となり、その後も米軍の軍事的拠点となった。そのため太平洋戦争終結後も読谷村には多くの基地が配置されたままであり、住民の帰村は遅れた。帰村許可後もその居住地は著しく制限され、かつての集落地へと戻ることができなかった住民は、新たな居住地にて生活を営む。日本復帰後は段階的に米軍基地が返還されるようになり、かつての居住地が解放され、住民の復帰も進んだ。

本発表では、このような状況下における基地返還や跡地利用に関する読谷村行政の取り組みと住民の生活基盤である村落(シマ、ムラ)=コミュニティの再生過程や現状、そしてそのなかで実践されてきた文化継承の諸側面について報告し、その意義について考察する。

具体的には、基地接收やその後の返還にともなう、村落の聖地である拝所(ウガンジュ)の再生、継承からその重要性を再確認する。さらには民話の継承、とりわけ読谷村楚辺の「赤犬子伝説」に着目し、社会変化に伴う民話の意味の変化といった動態性についても言及したい。

◆◆◆九州教育学会第 75 回大会準備委員会◆◆◆

委員長：嘉納 英明 名桜大学

事務局長：板山 勝樹 名桜大学

事務局員：山城 千秋 熊本大学

事務局員：嘉数 健悟 沖縄大学

事務局員：神田 奈津子 名桜大学

事務局員：濱本 想子 名桜大学

◆◆◆お問い合わせ先◆◆◆

〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220-1 名桜大学国際学部内

九州教育学会第 75 回大会準備委員会事務局（板山研究室）

TEL : 0980-51-1090（研究室） E-mail : kyukyou75@gmail.com